

連携医院のご紹介

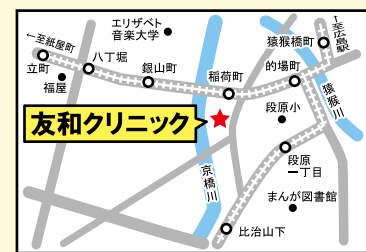
今回は、統合医療に特化している、南区稲荷町にある「友和クリニック」の宇土 博 院長にお話を伺いました。



宇土院長

友和クリニック

〒732-0827
広島市南区稲荷町 5-4
前田ビル 2F
電話 / 082-263-0850
院長 / 宇土 博
診療科目 / 内科・精神科・
神経内科・整形外科



友和クリニック外観
中華料理店の2階にあります

○いつ開業されましたか。

昭和 54 年 12 月に、佐伯町にある友和病院のサテライト・クリニックとして開業し院長になりました。その後、独立して現在に至っています。

○開業されてから今までのことを教えてください。

新しい針治療や人間工学処方等の統合医療により、職業病の患者さんや発達障害の子供さんの指導・治療にあたり、難治例の改善にも大きな成果をあげ、3歳から高齢者までの患者さんが遠くは北海道まで全国から受診されています。

○力を入れている事などを教えてください。

学習障害、発達障害、てんかんの治療、交通外傷後のびまん性脳損傷の治療も重点をおいて行なっています。鍼灸師が 4 人おり協力して治療を行なっています。

○毎日の診察で大切にされている事や、やりがいは何ですか？

患者さんの病気の原因を捕まえて治療することです。原因が分かれば予防ができます。例えばめまいがある患者さんで、話を聞いていくと原因は“パソコン作業”だったりします。針治療等と併せて、パソコンの位置変更のアドバイスをしたりと、

環境面も考えながら治療をすすめることで、いち早く症状緩和につながると思っています。

○県病院はどんなところですか。

いざという時に頼りになるところなので、引き続き頑張りたいと思います。今後もよろしくお願いいたします。

○その他記事にしてほしいことなど

西洋医学と東洋医学を合わせた統合医療は、まだまだ認知度が低いと思います。医師として患者さんの症状が緩和され日常生活を送ることができるのが一番なので、このような医療があるということに、目を向けていただきたいです。



▲針の効果を評価する
電流知覚閾値検査機
外反母趾対策の
靴も置いてあります▶

【取材後記】
患者さんの症状が緩和できる商品を多数開発されており驚きました。また待合室は和室で苦痛症状がある患者さんにとってくつろげる空間になっており、院長先生の患者さんに対する思いやりを感じました。

県立広島病院からのお知らせ

8月のがんサロン

- 開催日 令和3年 8月 27日(金)
- 時間 14:00~15:00
- 参加方法 オンライン形式 ※申し込みが必要です
- テーマ 最新!子宮がん・卵巣がん治療と遺伝の話
- 講師 産婦人科/白山 裕子 部長
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません
- 問合せ先 がん相談支援センター
☎ 082-256-3561 (担当/定元)
- 申込専用 hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp

TV放映 当院入院中の方は当院テレビ
(健康放送/12ch)でご覧いただけます。

診療日にご注意ください!

2021年の祝日移動に伴い、下記の日程で診療いたします。

8月					
8 日 山の日	9 月 振替休日	10 火	11 水	12 木	13 金
休み	休診	通常通り	開院	通常通り	

8月11日
から移動

山の日
の振替休日

山の日
は
8月8日に移動

もみじ



県立広島病院 ☎(082)254-1818(代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田 1 丁目 5 番 54 号



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

形成外科

教えて Dr. 49 増えたシミ 濃くなったシミ どうすれば?

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

形成外科 部長 新保 慶輔

◆シミの種類と特徴

鏡に映るシミを見て老け(老化)を感じる人は少なくないかもしれません。シミはいくつかに分類されますが、最も多いとされるシミは日光黒子(老人性色素斑)とされています。

日光黒子 にっこうこくし



30歳前後からシミができて始め、年齢を重ねるにつれてどんどん色が濃くなっていくのが、老人性色素斑と呼ばれる所以です。40~50歳代がピークと言われていますが、60歳を過ぎてでもできたり、濃くなったりします。最初は薄茶色で平たいのですが、どんどん濃くなり、境界がはっきりとしてきます。大きさは数ミリから数センチ程度と個人差があることも特徴です。顔以外にも腕や手の甲などの露出部にもできます。

肝斑 かんはん



30~40歳代の女性の顔に多く生じるシミで、日光の当たりやすい頬を中心にくすみがかかった薄い褐色でやや大きく、左右対称にできるのが特徴です。高齢者ではほとんど見られません。

雀卵斑 じゃくらんはん



雀卵斑は「ソバカス」と言われ、幼児期に発症することが多く、思春期頃までに濃くなる人が多いです。直径数ミリ以下の丸い斑点のような顔に生じる茶褐色の小さな斑点で、頬や鼻の周りなどに多く出ます。

◆原因について

日光黒子の主な原因はその名の通り紫外線です。また、老人性色素斑と言われるように加齢による肌の新陳代謝の低下も原因の一つです。紫外線を浴びるとメラノサイトがメラニン色素を作り、ほぼ28日サイクルでメラニン色素を排出しますが、過剰に紫外線を浴びたり、加齢で肌の新陳代謝が低下してくると、十分にメラニンが排出されずに肌に残り、次第にシミとなってしまいます。肝斑の主な原因も紫外線ですが、女性ホルモンとの関係も指摘されています。雀卵斑の主な原因は遺伝ですが、誘発因子として、紫外線の存在があります。以上から、シミの予防には紫外線対策を行うことが重要です。



次頁は医療従事者向け

◆治療について

シミができたと感じた場合、そのほとんどが老人性色素斑ですが、しっかりと他のシミと鑑別し、診断してから治療をする必要があります。

日光黒子の治療は、紫外線を浴びたことによってできてしまったシミ（黒色メラニン）を破壊することが重要なポイントになります。日光黒子は他のシミと比較してレーザーによる治療の効果が高いと言われており、レーザー照射によってメラニンを破壊し、その結果としてシミの排出をすることができます。

当院では最新型のQスイッチアレキサンドライトレーザー「ALEX II」を導入して、シミの施術を行っております。レーザーが過剰なメラニン色素にのみ選択的に作用し、照射時間が50ナノ秒という非常に短い時間のため、周りの正常な皮膚にはほとんどダメージを与えず、安全に治療することが可能です。

メリット

- シミにしか作用しないため安全
- 痛みが少ない（輪ゴムで弾かれたような痛み）
- 短時間（数分）で行える

デメリット

- 保険外診療（1ショットにつき2,000円）
- 治療箇所の色が一時的に濃くなることもある
※時間とともに徐々に薄くなることが多い

施術後当日から洗顔したり、メイクも可能ですが、治療箇所をこするなどの刺激を加えず、紫外線対策を行うようお願いしています。



Qスイッチアレキサンドライトレーザー「ALEX II」

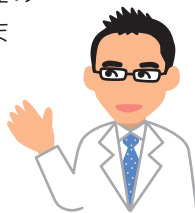
Qスイッチアレキサンドライトレーザーは、日光黒子の他に雀卵斑（ソバカス）にも良い適応になります。また、青や黒色のタトゥー（刺青）も保険外になります。生まれつきの青いアザ（異所性蒙古斑や太田母斑など）や怪我の後の刺青（外傷性色素沈着症）は保険での治療が可能です。

逆に、肝斑はレーザー治療で悪化することもあるため、他のシミとしっかり見分けることが大切です。ハイドロキノンなどの塗り薬を使用することが多いです。



◆たかがシミ、されどシミ

シミを長年放置したままにしておくと、盛り上がってきたり、カサカサした状態になり、脂漏性角化症（老化による良性のイボ）に進展することがあります。また、日光角化症のような皮膚癌が紛れていることもあり、ご心配なシミがあれば、一度ご相談下さい。



脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

過灌流症候群と段階的な頸動脈ステント術

【脳神経外科・脳血管治療外科 / 籬 拓郎】

頸動脈狭窄に対する頸動脈ステント術（Carotid Artery Stenting: CAS）は、低侵襲でその有効性から、現在広く行われているカテーテル治療です。しかし、著しい頸動脈の狭窄により頭蓋内の動脈が代償的に拡張して自動調節能が低下している状態のところに、ステント留置をすると急激に多量の血液が頭蓋内に流入します。その後、脳が充血状態となると頭痛・痙攣・頭蓋内出血（脳出血やくも膜下出血）などが生じる危険性があり、このような病態を過灌流症候群（Cerebral Hyperperfusion Syndrome: CHS）と呼んでいます。

CHSはCAS後の最も重大な合併症の一つです。発症率は4.6%程度と報告され、術後平均12時間で出現します。積極的な降圧療法では必ずしも防止はできないのが現状です。一方、CHSの対策として段階的な頸動脈ステント術（Staged CAS）が有効であることが報告されています。これは2段階で血行再建術を行う方法です。まず、第一段階として頸動脈狭窄をバルーンで軽度拡張を行う経皮的血管形成術（Percutaneous Transluminal Angioplasty: PTA）のみを行います。その後、約3週間後に第二段階としてCASを行うという術式です。当院ではこのような対策を講じながら積極的にCASを安全に施行しています。



外科医の独り言...no.118

— 父の信頼 —

この「外科医の独り言」を書き始めてもう少しで10年になります。色々なことを事実に基づいて重複しないように気を付けてつぶやいてきたつもりですが、今まで自分の書いてきた文章を見直したことがなかったので、No.1から前回のNo.117までざっと読み直して気づいたことがあります。なぜか少しずつ1回分の文字数が多くなっているのです。当初は1,000文字くらいの文章でしたが、最近は1,500文字を超える文章を書いているようです。歳を取ったせいか文章もだんだんと長くなっているのかもしれませんが、あまり推敲していないのでムダな箇所も散見されます。また、こんなことを書いたかなと記憶にないテーマもあり、10年の長い歳月を感じています。そのなかで亡き父のことに少しだけ触れている独り言がありました。もう20年前に胃がん罹った父親の手術を私が行いましたが、手術して3年後に再発して86歳で亡くなり、大正生まれの父になかなか本音で向き合えなかった自分に少しだけ後悔したような内容のことを書いていました。

今年はその父の17回忌です。私が言うのもおかしい話ですが、父は真面目で頑固で働き者、そして信仰心が強く、生前は近所のお寺の総代も務めていました。実は別の宗派にも執心で、何か相談事があると、汽車に乗って1日ばかりで総本山にお参りして住職に相談していたようです。その宗派を信頼して信仰するようになったきっかけを父から聞いたことがあります。今から約50年前、父は建材業を営んでおり、知人から総本山で様々な個人的な相談に乗ってもらえると聞いたようです。そこで住職に商売の相談に乗ってもらったところ、近いうちに水難に合う、家に水が入らないように工夫しなさい、とアドバイスをもらったそうです。私の実家の裏には川が流れており、父は、今まで経験したことのない大雨が降って、川が氾濫する

というお告げであると理解したのです。そして、家業のおかげで、家の周りの壁をかさ上げして補強するのに時間はかかりませんでした。工事が終わって間もなくして、昭和47年7月豪雨が県北を襲いました。自宅裏の川は氾濫し、自宅前の道路に濁流が凄い勢いで流れ込んできましたが、災害直前に行った壁の補強でわが家は何とか浸水を免れました。

それ以来、その住職さんに対する父の信頼は絶大なものとなり、特に事業のことについてはことあるごとに必ず住職さんのアドバイス（お告げ）を聞きに行くようになったそうです。そして私たち子供の受験の結果もことごとく命中したそうです。父の中では住職さんのお告げは絶対だったのです。そのような状況で迎えた私の大学受験、私から医学部を受験すると聞いて驚いた父は、当然住職さんのところに相談に行ったそうです。当時、私は親元を離れて広島に住んでいましたので、住職さんに相談しているとは全く知りませんでした。後年、母から聞いた話ですが「医学部に行かせてはダメです、あきらめさせなさい」というお告げだったそうです。しかし、父はこのことを一切私には話しませんでした。母には「好きにさせてやれ」とだけ言ったそうです。子供の意思を尊重してくれた父には今でも大変感謝しています。結果的にはその年の受験は失敗しましたが、翌年1年浪人して医学部に合格しました。

そして、それから20年後父親が胃がんであることが判明しました。進行がんでしたが、手術をすれば治る可能性があることを説明し、私に手術をさせてくれと頼み、承諾してくれました。これも後に母から聞いた話ですが、胃がん手術をすることについて住職さんには全く相談していませんでした。



院長 / 板本 敏行

医療従事者への応援メッセージが届きました！

令和3年7月7日に県立安芸府中高等学校一学年の生徒さんたちより、コロナ禍で頑張っている医療従事者へ感謝の気持ちを伝えたいという思いを言葉と絵にした旗が生徒会長さんと副会長さんによって、当院に手渡されました。「感恩戴徳（かんおんたいとく）」とは「心から感謝し、敬愛の念をもつこと」を意味し、医療従事者の方が世の中を懸命に明るくしていることを太陽に重ね、太陽をモチーフにデザインされたものです。太陽をイメージして貼り付けられた円の一つひとつには、生徒さんからのメッセージが書かれています。みなさんからのメッセージは、この緊迫した状況の中で私たちの心に強く響きました。『ウイルスに負けずにがんばろう！』これからも職員一丸となって乗り切りたいと思います。



応援旗には沢山のメッセージ



安芸府中高等学校の生徒さんと当院スタッフ